
春成秀樹(秀爾)年譜

1942年(昭和17年)

12月15日 兵庫県武庫郡御影町(現、神戸市東灘区御影)に生まれる(本名 秀樹)

1944年(昭和19年)

3月 鹿児島市に疎開, 1945年6月 大空襲のあと川辺郡加世田町(のちに加世田市, 現、南さつま市)に疎開, そのまま小学校時代を過ごす(1955年3月まで)

1955年(昭和30年)

4月 兵庫県明石市に住み中学・高校時代を過ごす(以来、屏風ヶ浦海岸で象・鹿化石を収集, 長坂寺山, 西脇の旧石器遺跡, 金ヶ崎, 藤江出ノ上の縄文遺跡などを発見調査)

1957年(昭和32年)

10月 考古学研究会入会

1961年(昭和36年)

3月 兵庫県立明石高等学校卒業

1962年(昭和37年)

4月 岡山大学法文学部史学科(日本史専攻)入学(以来、岡山県津島遺跡, 都月坂1号墳・4号墳・2号墳丘墓, 鑄物師谷1号墳丘墓, 宮山墳墓群, 門田貝塚, 広島県帝釈馬渡岩陰, 香川県喜兵衛島遺跡, 兵庫県日笠山貝塚, 田能遺跡, 吉島古墳, 長崎県福井洞穴, 熊本県沖ノ原遺跡などの発掘調査に参加)

1963年(昭和38年)

4月 考古学研究会常任委員(編集担当, 1966年4月まで)

1966年(昭和41年)

3月 岡山大学法文学部史学科卒業(卒業論文「成り立古墳に関する一考察」)

4月 九州大学大学院文学研究科修士課程(考古学専攻)入学(以来、福岡県東郷遺跡群, 佐賀県宇木汲田遺跡の発掘調査に参加), 考古学研究会全国委員(1967年4月まで)

6月 九州大学大学院文学研究科修士課程中退

7月 岡山大学法文学部(考古学)助手(以来、岡山県伊与部山墳丘墓, 上原遺跡, 立坂墳丘墓, 車塚古墳, 狼穴岩陰, こうもり塚古墳, 畑古墳, 津島遺跡, 黒島貝塚, 広島県帝釈名越岩陰, 香川県喜兵衛島遺跡, 兵庫県養久山1号墳・5号墳丘墓・32号墳丘墓, 京都府椿井大塚山古墳, 三重県小海遺跡, 宮城県道内原遺跡などの発掘調査に従事)

1967年(昭和42年)

2月 「埴輪の起源」を発表

4月 考古学研究会常任委員(編集担当, 1981年4月まで)

1969年(昭和44)

5月 日本考古学協会入会

1972年(昭和47年)

7～8月 ギリシア・イタリアの史跡・博物館を視察

10月 岡山大学法文学部講師(1980年9月まで)

1974年(昭和49年)

5月 日本考古学協会委員(1983年5月まで)

1977年(昭和52年)

10月 九州大学に内地留学(研究課題「弥生時代開始論」, 1978年3月まで)

1980年(昭和55年)

10月 文化庁文化財保護部管理課国立歴史民俗博物館設立準備室文化財調査官。抜歯人骨の調査を始める。

-
- 1981年** (昭和56年)
4月 国立歴史民俗博物館考古研究部助教授。銅鐸の調査を始める
考古学研究会全国委員 (1989年4月まで)
- 1982年** (昭和57年)
4月 國學院大学文学部 (考古学) 非常勤講師 (1983年3月まで)
- 1984年** (昭和59年)
4～5月 愛知県渥美町伊川津貝塚の発掘調査 (副団長)
- 1985年** (昭和60年)
2～3月 明石市西八木海岸の発掘調査 (責任者)
10月 明石市政功労表彰 (明石市西八木海岸の発掘調査にもとづく「明石原人」問題の追究)
- 1988年** (昭和63年)
4月 岡山大学文学部 (考古学) 非常勤講師 (1989年3月まで)
- 1989年** (平成元年)
4月 考古学研究会全国委員 (陵墓委員, 1991年4月まで)
8月 千葉県成田市荒海貝塚の第1次発掘調査 (研究代表者)
- 1990年** (平成2年)
3月 国立歴史民俗博物館考古研究部教授
8月 千葉県荒海貝塚の第2次発掘調査 (研究代表者)
- 1991年** (平成3年)
4月 考古学研究会常任委員 (編集委員, 2003年4月まで)
9～10月 鹿児島県加世田市龍徳院墓地の第1次発掘調査 (責任者)
- 1992年** (平成4年)
3～4月 鹿児島県加世田市龍徳院墓地の第2次発掘調査 (責任者)
4月 東北大学文学部 (考古学) 非常勤講師 (1993年3月まで)
富山大学人文学部 (考古学) 非常勤講師 (1992年9月まで)
- 1993年** (平成5年)
7～8月 鹿児島県十島村宝島大池遺跡の第1次発掘調査 (研究代表者)
9月 日本第四紀学会評議員 (1995年7月まで)
第6回濱田青陵賞受賞 (原始時代の社会構造とイデオロギーに関する考古学的研究)
11月 第2回雄山閣考古学特別賞受賞 (『図解・日本の人類遺跡』を東京大学出版会から刊行, 共編者の小野昭・小田静夫と)
- 1994年** (平成6年)
4月 大阪大学文学部 (考古学) 非常勤講師 (1995年3月まで)
広島大学文学部 (考古学) 非常勤講師 (1995年3月まで)
山梨大学教育学部 (考古学) 非常勤講師 (1995年3月まで)
7～8月 鹿児島県十島村宝島大池遺跡の第2次発掘調査 (研究代表者)
- 1995年** (平成7年)
4月 考古学研究会代表委員 (2000年4月まで)
- 1996年** (平成8年)
4月 茨城大学人文学部 (考古学) 非常勤講師 (1997年3月まで)
東京大学文学部 (考古学) 非常勤講師 (1997年3月まで)
- 1997年** (平成9年)
4月 徳島大学総合科学部 (考古学・博物館学) 非常勤講師 (1998年3月まで)
文部科学省科学研究費重点 (特定) 領域研究「日本人および日本文化の起源に関する学際的研究」
考古学班研究代表者 (2001年3月まで)
11月 沖縄県波照間島大泊遺跡の発掘調査 (責任者・団長)
-

1998年 (平成10年)

4月 国立歴史民俗博物館考古研究部長・教授 (2000年3月まで)

12月 沖縄県国頭村茅打パンタ遺跡の発掘調査 (責任者・副団長)

1999年 (平成11年)

4月 総合研究大学院大学文化科学研究科 (日本歴史専攻) 教授

12月 大分県本匠村聖嶽洞窟の発掘調査 (責任者・副団長)

2000年 (平成12年)

12月 埼玉県前期旧石器時代遺跡緊急調査事業検討委員会副委員長 (2002年3月まで)

2001年 (平成13年)

6月 日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会副委員長 (2003年5月まで)

2003年 (平成15年)

3月 「縄文社会論究」により博士 (文学) の学位を九州大学で取得。北アメリカ北西海岸先住民の銅板の調査を始める

2004年 (平成16年)

4月 大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館研究部・総合研究大学院大学 (改組) 教授

2008年 (平成20年)

3月 大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学を定年退職

春成秀爾研究業績目録

I 著作

1962年

1. 「明石で無土器文化遺跡を発見」『考古学研究』第8巻第4号, 38頁, 考古学研究会, 3月

1963年

2. 「藤森栄一「縄文中期文化の構成」を読んで」『考古学研究』第10巻第1号, 52～54頁, 6月

1967年

3. 「埴輪の起源」(近藤義郎と共著)『考古学研究』第13巻第3号, 13～35頁, 2月(祭り)
4. 「弥生期古墳の地域相—吉備—」『歴史教育』第15巻第3号, 47～53頁, 日本書院, 3月
5. 『東郷遺跡群』(波多野暁三と共著), 総72頁, 日本住宅公団, 3月

1968年

6. 「明治時代における民族論敗退の背景」『岡山史学』第22号, 44～50頁, 岡山史学会, 12月(考古学者)

1969年

7. 「中・四国地方縄文時代晩期の歴史的位罫」『考古学研究』第15巻第3号, 19～34頁, 2月
8. 「備中清音村鋳物師谷1号墳墓調査報告」(葛原克人・中田啓司・小野一臣と共著)『古代吉備』第6集, 7～21頁, 古代吉備研究会, 3月
9. 「縄文晩期文化(中国・四国)」『新版考古学講座』第3巻, 先史文化(八幡一郎ほか編), 367～384頁, 雄山閣出版, 5月

1970年

10. 「日本旧石器時代研究史から学ぶもの(1)」『考古学研究』第16巻第4号, 2～11頁, 3月
11. 「弥生墳墓から古墳へ」『古代の日本』第4巻, 中国・四国(近藤義郎・上田正昭編), 66～85頁, 角川書店, 3月
12. 「津島武道館事件の決着とその後の岡山県下の文化財行政の動向および私たちの立場」『埋蔵文化財問題—1969』54～57頁, 文化財保護対策協議会ほか, 6月
13. 「捏造された前方後円墳」『考古学研究』第17巻第2号, 6～12頁, 9月(検証)

1971年

14. 「埴輪の起源」(近藤義郎と共著)『論集 日本文化の起源』1, 考古学(小林行雄編), 570～597頁, 平凡社, 2月(3を採録)
15. 「岡山県津山市上原遺跡」『日本考古学年報』19, 昭和41年度, 135頁, 日本考古学協会, 3月
16. 「岡山市津島遺跡保存問題」(今井堯と共著)『文化遺産の危機と保存運動』(文化財保存全国協議会編) 116～126頁, 青木書店, 10月(12を抄録)
17. 「黒島貝塚の第二次調査にあたって」『広報うしまと』第78号, 3頁, 7月
18. 「70年における弥生時代研究の動向」『考古学研究』第18巻第2号, 58～69頁, 9月
19. 「岡山市牟佐大塚古墳」(出宮徳尚・近成久美子と共著)『古代吉備』第7集, 42～52頁, 11月
20. 「「こうもり塚」と「黒媛塚」」『考古学研究』第18巻第3号, 23～38頁, 12月(検証)
21. 賀川論文「西日本における礫器の問題」に対する論評『第四紀研究』第10巻第4号, 225～228頁, 日本第四紀学会, 12月

1972年

22. 『新しい日本の歴史』小学校, 第1編, 原始社会から古代国家へ(共著), 総27頁, 考古学研究会, 3月
23. 『新しい日本の歴史』中学校, 第1編, 原始社会から古代国家へ(共著), 総47頁, 考古学研究会, 3月
24. 『新しい日本の歴史』高等学校, 第1編, 原始社会から古代国家へ(共著), 総52頁, 考古学研究会, 3月
25. 「「西都原風土記の丘」の現状と問題点」『埋蔵文化財問題 1970～1971』文化財を守るために, 第6号, 7～11頁, 1972年4月

-
26. 「埴輪の起源」(近藤義郎と共著)『日本考古学年報』20, 50～52頁, 日本考古学協会, 5月(3を抄録)
 27. 「兵庫県揖保郡養久山墳墓群」(近藤義郎名義)『日本考古学年報』20, 昭和42年度, 156頁, 5月
 28. 「A 44 都月1号墳出土の土器」(近藤義郎と共著)『土師式土器集成』本編2(中期), (杉原荘介・大塚初重編), 117～118頁, 東京堂出版, 9月
 29. 「岡山県の考古学点描」(近藤義郎と共著)『岡山史学』第25号, 79～84頁, 12月
 30. 「鹿児島県日置郡中津野遺跡出土の製塩土器」『鹿児島考古』第6号, 138～142頁, 鹿児島県考古学会, 12月

1973年

31. 「弥生時代はいかにして始まったか」『考古学研究』第20巻第1号, 5～31頁, 8月
 32. 「抜歯の意義」『考古学研究』第20巻第2号, 25～48頁, 12月(縄文社会)
 33. 『日本考古学の発達と科学的精神』和島誠一著(共編), 総831頁, 和島誠一著作集刊行会, 12月

1974年

34. 「津島遺跡ノート」『歴史手帖』第2巻第2号, 27～32頁, 名著出版, 2月
 35. 「抜歯の意義(2)」『考古学研究』第20巻第3号, 41～58頁, 2月(縄文社会)
 36. 「「神武陵」の変遷」『岡山の歴史地理教育』第7号, 48～56頁, 岡山県歴史教育者協議会, 7月

1975年

37. 「神武陵はいつつくられたのか」『考古学研究』第21巻第4号, 59～82頁, 3月(検証)
 38. 『備前国分寺跡緊急発掘調査概報』(伊藤晃ほかと共著)『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』第10集, 総40頁, 岡山県教育委員会, 3月
 39. 「コメント 都出比呂志「古墳出現前夜の集団関係」」『考古学研究』第21巻第1号, 33～34頁, 6月
 40. 「「倭国乱」の歴史的意義」『日本史を学ぶ』第1巻(吉田晶編), 31～45頁, 有斐閣, 8月
 41. 「抜歯の話」『古代学研究』第77号, 44～47頁, 古代学研究会, 9月
 42. 「野尻湖の化石と遺物—人工遺物—」(岡本郁栄と共著)『国土と教育』第35号, 20～23頁, 築地書館, 12月
 43. 「人類・考古」『野尻湖の発掘写真集』(野尻湖発掘調査団編)8～9頁, 共立出版株式会社, 12月

1976年

44. 「野尻湖「ヴィーナス」の問題点」『上越地区野尻湖友の会だより』第5号, 3～4頁, 上越地区野尻湖友の会, 3月
 45. 「先土器・縄文時代の画期について(1)」『考古学研究』第22巻第4号, 68～92頁, 3月
 46. 「弥生時代研究の動向」『日本考古学年報』27(1974年度版), 5～7頁, 日本考古学協会, 5月
 47. 『私たちの文化財』(編集)総37頁, 文化財保存全国協議会, 5月
 48. 「古墳祭式の系譜」『歴史手帖』第4巻第7号, 82～90頁, 7月(祭り)

1977年

49. 「史跡公園・資料館の役割」『地方史と考古学』(甘粕健編), 地方史マニュアル9, 206～214頁, 柏書房, 4月
 50. 「「倭国」の乱—弥生時代の瀬戸内—」『岡山の歴史地理教育』第9号, 81～96頁, 5月
 51. 「埴輪」『考古資料の見方(遺物編)』(甘粕健編)地方史マニュアル6, 195～245頁, 柏書房, 7月

1978年

52. 「銅鐸の埋納と分布の意味」『歴史公論』第4巻第3号, 87～97頁, 雄山閣出版, 3月(祭り)
 53. 「花泉出土品見学の印象」『かんかん石』第2号, 6～9頁, 岡山野尻湖友の会, 9月
 54. 「縄文晩期の稲作」『山陽新聞』10月5日, 山陽新聞社, 10月
 55. 「弥生時代の開始と朝鮮」『日本のなかの朝鮮文化』第40号, 57～65頁, 朝鮮文化社, 12月

1979年

56. 「最近話題の考古学的知見」(西川宏と共著)『歴史地理教育』第287号, 6～13頁, 歴史教育者協議会, 1月
 57. 「縄文時代の終焉」『歴史公論』第5巻第2号, 105～115頁, 2月
-

-
58. 「山陰における弥生時代の開始」『松江考古』第2号, 巻頭頁, 松江考古学談話会, 5月
 59. 「古墳出現前後の出雲と吉備」『松江考古』第2号, 17～31頁, 5月
 60. 「鹿間時夫著『古脊椎動物図鑑』の刊行に想う」『かんかん石』第5号, 3～6頁, 6月
 61. 「縄文晩期の婚後居住規定」『岡山大学法文学部学術紀要』第40号(史学篇), 25～63頁, 岡山大学法文学部, 12月(縄文社会)

1980年

62. 「菌」『グランド現代百科辞典』第23巻, 219～220頁, 学習研究社, 3月
63. 「黒島貝塚」「七つグロ古墳」『岡山県歴史事典』山陽新聞社, 3月
64. 「縄文合葬論」『信濃』第32巻第4号, 1～35頁, 信濃史学会, 4月(縄文社会)
65. 『播磨考古学研究』今里幾次著(共編, 刊行にあたって), 総422頁, 今里幾次論文集刊行会, 3月
66. 「縄文晩期の装身原理」『小田原考古学研究会会報』第9号, 44～60頁, 小田原考古学研究会, 4月(縄文社会)
67. 「明石市西脇遺跡の旧石器」『旧石器考古学』第21号, 27～53頁, 旧石器文化談話会, 10月
68. 「縄文中・後期の抜歯儀礼と居住規定」『鏡山猛先生古稀記念 古文化論叢』39～68頁, 鏡山猛先生古稀記念論文集刊行会, 10月(縄文社会)
69. 「土器」(葛原克人ほかと共著)『鬼ノ城』89～97頁, 鬼ノ城学術調査委員会, 10月

1981年

70. 「発掘と調査 岡山県」『日本考古学年報』21・22・23(1968・1969・1970年度版)270～271頁, 日本考古学協会, 4月
71. 「神戸市大歳山遺跡の旧石器」『旧石器考古学』第22号, 53～58頁, 5月
72. 「縄文時代の複婚制について」『考古学雑誌』第67巻第2号, 1～40頁, 日本考古学会, 9月(縄文社会)
73. 「明石市寺山遺跡の旧石器」『旧石器考古学』第23号, 75～93頁, 10月
74. 「直良信夫博士一学問の楽しさ・情熱を教えてください」『普門』第14号, 佼成出版社, 11～13頁, 10月
75. 「神戸市大歳山の古墳ほか」『兵庫考古』第15号, 2～9頁, 兵庫考古学研究会, 12月

1982年

76. 「銅鐸祭祀の終焉」『歴史公論』第8巻第4号, 95～103頁, 4月
77. 「土井ヶ浜集団の構造」『森貞次郎博士古稀記念 古文化論集』上, 355～376頁, 森貞次郎博士古稀記念論文集刊行会, 4月
78. 「播磨南部採集の旧石器」(松本正信・安川豊史と共著)『旧石器考古学』第24号, 99～128頁, 4月
79. 「縄文社会論」『縄文文化の研究』8, 社会・文化, 223～252頁, 雄山閣出版, 5月(縄文社会)
80. 「備前の大形古墳の再検討」『古代を考える』第31号, 1～28頁, 古代を考える会, 5月
81. 「銅鐸の時代」『国立歴史民俗博物館研究報告』第1集, 1～48頁, 国立歴史民俗博物館, 6月
82. 「抜歯風習の起源」『朝日新聞』東京版, 9月9日夕刊, 文化欄, 9月
83. 「抜歯」『日本歴史地図』原始・古代編(上), 131～134頁, 柏書房, 10月
84. 「銅鐸出土地名表」(佐原真と共著)『考古学ジャーナル』第210号, 30～48頁, ニュー・サイエンス社, 11月

1983年

85. 「三遠式銅鐸の鑄造地」『考古学雑誌』第68巻第2号, 102～103頁。
 86. 「稲と倭人」『国立歴史民俗博物館』国立歴史民俗博物館総合展示図録, 17～24頁, 3月
 87. 「竪穴墓域論」『北海道考古学』第19輯, 1～18頁, 北海道考古学会, 3月(縄文社会)
 88. 「縄文時代の婚姻形態」『家族史研究』第7集, 142～161頁, 大月書店, 4月
 89. 「抜歯」『考古遺跡・遺物地名表』423～429, 604～607頁, 柏書房, 4月(縄文社会)
 90. 「抜歯と風習」(瀬津加奈子と対談)『Dental Diamond』第8巻第5号, 67～73頁, デンタルダイヤモンド社, 5月
 91. 「明石発見の鴉尾新資料」『古文化論叢』547～570頁, 藤沢一夫先生古稀記念論文集刊行会, 7月
-

-
92. 「私の研究—母系制から父系制への移行」『読売新聞』東京版, 7月20日, 文化欄, 7月
 93. 「心の中に生きる金関先生」『えとのす』第21号, 75～76頁, 7月
 94. 「縄文墓制の諸段階」『歴史公論』第9巻第5号, 40～51頁, 9月(縄文社会)
 95. 「造山・作山古墳とその周辺」『岡山の歴史と文化』(藤井駿先生喜寿記念会編), 1～40頁, 福武書店, 10月
 96. 「旧石器時代の兵庫県」『兵庫県大百科事典』上巻, 661～662頁, 神戸新聞出版センター, 10月
 97. 「装身の歴史—採取の時代」『季刊考古学』第5号, 18～22頁, 雄山閣出版, 11月(縄文社会)
 98. 「抜歯習俗の成立」『季刊考古学』第5号, 61～67頁, 11月(縄文社会)
 99. 「採取社会から農耕社会へ—日本」『日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムV抄録』113～127頁, 国立民族学博物館, 12月

1984年

100. 「弥生時代九州の居住規定」『国立歴史民俗博物館研究報告』第3集, 1～40頁, 1月
 101. 「前方後円墳論」『東アジアにおける日本古代史講座』第2巻, 205～243頁, 学生社, 1月(祭り)
 102. 「箸墓古墳の再検討」(白石太郎ほかと共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』第3集, 41～80頁, 1月(祭り)
 103. 「清野謙次論」『縄文文化の研究』第10巻, 80～88頁, 雄山閣出版, 4月(考古学者)
 104. 「金関先生と明石人骨」『旧石器考古学』第28号, 3～4頁, 4月
 105. 「播磨福本遺跡の旧石器」(増田重信と共著)『旧石器考古学』第28号, 62～67頁, 4月
 106. 「稲と倭人」『歴博』第4号, 8～9頁, 国立歴史民俗博物館, 4月
 107. 「叉状研歯の継承」『歴博』第6号, 12～13頁, 8月
 108. 「最古の銅鐸」『考古学雑誌』第70巻第1号, 29～51頁, 8月
 109. 「縄文時代の民俗」『縄文人のくらし』14～17頁, 長野市立博物館, 10月
 110. 「明石市三本松瓦窯址の所在地」『兵庫考古』第20号, 7～8頁, 11月
 111. 「明石人問題」『旧石器考古学』第29号, 1～30頁, 11月

1985年

112. 「『明石原人』は実在しなかったのか」『科学朝日』第45巻第1号, 77～82頁, 朝日新聞社, 1月
 113. 「弥生時代畿内の親族構成」『国立歴史民俗博物館研究報告』第5集, 1～47頁, 3月
 114. 「埋葬の諸問題」『伊川津遺跡調査概報』(伊川津遺跡発掘調査団編), 22～27頁, 渥美町教育委員会, 3月
 115. 「愛知県伊川津遺跡の調査」『考古学雑誌』第70巻第3号, 20～32頁, 3月
 116. 「鉤と靈—有鉤短剣の研究—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集, 1～62頁, 3月(縄文社会)
 117. 「5～6万年前の旧人か—明石人の発掘検証を終えて」『神戸新聞』4月15日, 文化欄, 4月
 118. 「愛知県吉胡遺跡」『探訪縄文の遺跡』西日本, 68～75頁, 有斐閣, 4月
 119. 「明石人の発掘」『歴博』第10号, 6～7頁, 4月
 120. 「子どもの考古学」『歴博』第10号, 14頁, 4月
 121. 『日本旧石器人の探求』直良信夫著(編集・解説), 総358頁, 六興出版, 6月
 122. 「解説」同上, 331～356頁, 6月
 123. 「西八木出土「古人類前頭骨」の初歩的検討」『旧石器考古学』第31号, 1～12頁, 10月(検証)
 124. 「弥生墓地の構造」『月刊文化財』第266号, 4～10頁, 第一法規出版, 11月
 125. 「大岩山銅鐸群と近畿・東海勢力」『銅鐸の謎を解く』野洲の歴史を考えるシンポジウム, 6頁, 野洲町教育委員会, 11月
 126. 「学問領域こえ, 自由な研究—直良信夫氏を悼む」『毎日新聞』11月12日夕刊, 文化欄, 11月
 127. 「故直良信夫博士と山陰」『山陰中央新報』11月20日, 文化欄, 11月

1986年

128. 「道と運搬法」『弥生文化の研究』第7巻, 弥生集落, 83～90頁, 雄山閣出版, 1月
 129. 「弥生時代」『図説 発掘が語る日本史』第2巻, 関東・甲信越編(小林達雄編), 115～156頁, 新人
-

物往来社, 2月

130. 「サギかつるか」『歴博』第15号, 1頁, 2月
131. 「近代の兵舎」『佐倉城の武家屋敷は語る』(杉山晋作編) 4～5頁, 国立歴史民俗博物館, 3月
132. 「明石市西八木海岸の発掘調査」『日本文化財科学会第3回大会研究発表要旨』4月
133. 「縄文・弥生時代の婚姻居住様式」『日本民俗社会の形成と発展』(竹村卓二編), 391～414頁, 山川出版社, 5月
134. 「明石人発掘雑感」『日本文化財科学会会報』第13号, 11～12頁, 文化財科学会, 6月
135. 「明石人問題その後」『歴博』第18号, 9頁, 8月
136. 「古墳のまつり」『古代甲斐国と畿内王権』46～49頁, 山梨県立考古博物館, 10月
137. 「明石市西八木海岸発見の人工遺物」(西本豊弘共著)『第40回日本人類学会・日本民族学会連合大会研究発表抄録』113, 九州大学医学部, 11月
138. 「銅鐸の埋納と分布の意味」『容器・道具と宝器』日本考古学論集4(斎藤忠編), 313～328頁, 吉川弘文館, 11月(52を採録)
139. 「伊勢御正体厨子奉籠の五穀及び五葉について」直良信夫著(編集)『古代』第82号, 5～13頁, 早稲田大学考古学会, 12月
140. 「マイルカの右側橈骨に突き刺さった石器」直良信夫著(編集)『古代』第82号, 14～16頁, 12月
141. 「秩父市影森橋立洞窟発掘の動物遺体」直良信夫著(編集)『古代』第82号, 17～19頁, 12月
142. 「直良先生の命名された新種」『古代』第82号, 20～22頁, 12月
143. 「土師器」『椿井大塚山古墳』(近藤義郎編) 京都府山城町埋蔵文化財調査報告, 第3集, 20～25頁, 山城町教育委員会, 12月
144. 「付記・解説」韓国大田出土の農耕画青銅器(韓炳三・今津啓子訳)『えとのす』第31号, 66頁, 新日本教育図書, 12月
145. Rules of Residence in the Jomon Period, Based on the Analysis of Tooth Extraction. *Windows on the Japanese Past*, pp. 293～310, The University of Michigan.

1987年

146. 「対馬から沖ノ島へ一海の道と祭りの場」『週刊朝日百科日本の歴史41, 原始・古代8, 邪馬台国と大王の時代』(鬼頭清明編), 234～235頁, 朝日新聞社, 1月(祭り)
147. 「縄文合葬論」『墳墓と経塚』日本考古学論集6(斎藤忠編), 24～76頁, 吉川弘文館, 1月(64を採録)
148. 「歯牙変工」『文化人類学事典』(石川栄吉ほか編), 321～322頁, 弘文堂, 2月
149. 「銅鐸のまつり」『国立歴史民俗博物館研究報告』第12集, 1～38頁, 3月
150. 『明石市西八木海岸の発掘調査』(編著)『国立歴史民俗博物館研究報告』第13集, 総304頁, 39図版, 3月
151. 「発掘前史」同上, 5～28頁, 「発掘の概要」(西本豊弘と共著) 29～44頁, 「西八木層出土の人工遺物」55～82頁, 「西八木海岸発掘調査の意義」291～304頁, 3月
152. 「抜歯」『弥生文化の研究』第8巻, 祭りと墓と装い, 79～90頁, 雄山閣出版, 4月
153. 「明石市西八木遺跡」『日本考古学年報』38, 1985年度版, 499～502頁, 日本考古学協会, 5月
154. 『日本第四紀地図』(貝塚爽平ほかと共編著), 総119頁, 地図4葉, 東京大学出版会, 7月
155. 「縄文時代」(小池裕子と共著), 「弥生時代」, 「古墳時代」(古谷毅と共著) 同上, 100～116頁, 「日本第四紀地図Ⅱ 先史遺跡・環境図C・D」, 7月
156. 「縄文・弥生時代の親族組織をさぐる」『日本の古代』11, ウヂとイエ(大林太良編), 33～76頁, 中央公論社, 8月
157. 「九州の銅鐸」『歴博』第25号, 14頁, 10月
158. 『大歳山遺跡の研究』直良信夫著(編集・解題), 総239頁, 真陽社, 11月
159. 「直良信夫氏と大歳山遺跡」同上, 219～238頁, 11月(一部, 考古学者)
160. 『日本の古墳墓』森本六爾著(編集・解説), 総583頁, 木耳社, 11月
161. 「解説」同上, 571～583頁, 11月(考古学者)

1988年

162. 「明石人の再発見」『図説検証 原像日本』（陳舜臣・門脇禎二・佐原真編）第1巻，列島の遠き祖先たち，46～52頁，旺文社，1月
163. 「銅鐸から前方後円墳へ」『日本文化の源流』（小林達雄ほか2名と共著）71～123頁，学生社，2月
164. 「葬送の世界」『図説検証 原像日本』第2巻，生活と習俗，167～188頁，旺文社，2月
165. 「稲作の始まり—弥生時代の東と西—」『歴博』第27号，4～5頁，2月
166. 『伊川津遺跡』（小野田勝一・西本豊弘と共編）渥美町埋蔵文化財調査報告書，4，本文編総450頁，図版編総168頁，渥美町教育委員会，3月
167. 「石器」同上，142～185頁，「埋葬の諸問題」395～420頁（縄文社会），「伊川津集団の消長」（設楽博己と共著）433～442頁，「伊川津集団の社会関係」443～445頁，3月
168. 「トリニール人骨出土地・パチタン遺跡（インドネシア・ジャワ島）」『考古学研究』第34巻第4号，16～17頁，3月
169. 「日本の銅鐸について」『東南アジア考古学会会報』第8号，33～34頁，東南アジア考古学会，5月
170. 「壺に描かれた船」『古代の船』特設展図録，45～46頁，福岡市立歴史資料館，8月（絵画）
171. 「金閨丈夫論」『弥生文化の研究』第10巻，研究の歩み，94～105頁，雄山閣出版，11月（考古学者）
172. 「墓は語る—弥生墓地にみる親族組織」『歴史の読み方3，考古学への招待』週刊朝日百科日本の歴史・別冊，15～21頁，朝日新聞社，12月
173. 「忠類ナウマン象に伴出の石器」『考古学と関連科学』13～29頁，鎌木義昌先生古稀記念論文集刊行会，12月

1989年

174. 「遠江の銅鐸寸感」『浜松市博物館館報』第1号，13～16頁，浜松市博物館，2月
175. 「又状研歯」『国立歴史民俗博物館研究報告』第21集，87～137頁，3月（縄文社会）
176. 「銅鐸の世界」『弥生の巨大遺跡と生活文化』（田原本町教育委員会編），95～109頁，雄山閣出版，4月
177. 「坪井さんと赤米と直良さん」『追悼 坪井洋文』172～173頁，坪井洋文追悼文集刊行会，6月
178. 「墓碑をもつ前方後円墳」『歴博』第35号，10～11頁，6月
179. 「弥生時代の木製司祭服」『歴博』第37号，表紙裏，10月
180. 「九州の銅鐸」『考古学雑誌』第75巻第2号，1～50頁，12月
181. 「宮内庁との会見がおこなわれる」『考古学研究』第36巻第3号，34～35頁，12月

1990年

182. 「座談会 吉野ヶ里遺跡をめぐって」（小林達雄ほかと共著）『國學院雑誌』第91巻第1号，14～55頁，國學院大学，1月
183. 「縄文か弥生か—荒海貝塚から稲作の証拠—」『歴博』第39号，10～11頁，2月
184. 『弥生時代の始まり』UP 考古学選書11，総149頁，東京大学出版会，3月
185. 「男と女の闘い」『国立歴史民俗博物館研究報告』第25集，1～28頁，3月（絵画）
186. 「銅鐸」『人間の美術』2，稲と権力（佐原真・猪熊兼勝編），46～55頁，学習研究社，6月
187. 「弥生の集落」『歴史と社会』10，5～31頁，リプロポート，9月
188. 「象がつくったヴィーナス」『旧石器考古学』第41号，1～8頁，旧石器文化談話会，11月（検証）

1991年

189. 「邪馬台国論争 新段階に—「大和政権への道」シンポジウムから」『朝日新聞』東京版，2月4日夕刊，文化欄，2月
190. 「親族組織の変化」『弥生文化—日本文化の源流をさぐる—』（大阪府立弥生文化博物館編）97～103頁，平凡社，2月
191. 「描かれた建物」『弥生時代の掘立柱建物』本篇，55～69頁，埋蔵文化財研究会，2月（絵画）
192. 「角のない鹿—弥生時代の農耕儀礼—」『日本における初期弥生文化の成立』横山浩一先生退官記念論文集Ⅱ，442～481頁，文献出版，2月（絵画）
193. 『近畿古代文化論考』直良信夫著（編集・解説），総877頁，木耳社，2月

-
194. 「解説」同上, 865～877頁, 2月
 195. 「人骨製腕輪」『考古学雑誌』第76巻第4号, 87～96頁, 3月(儀礼)
 196. 「銅鐸絵画の原作と改作」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集, 1～28頁, 3月(絵画)
 197. 「弥生時代の始まり—青銅器から見た弥生社会—」『平成2年度長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録』25～49頁, 長崎県教育庁文化課, 3月
 198. 「直良信夫博士の初期論文集『近畿古代文化論考』刊行」『神戸新聞』5月2日, 文化欄, 5月
 199. 「白滝遺跡出土の鹿角」『旧石器考古学』42, 75～80頁, 5月
 200. 「吉備と大和」『大和政権への道』(西嶋定生・渡辺貞幸・柳沢一男・都出比呂志・直木孝次郎と共著), 47～73頁, 日本放送教育協会, 9月
 201. 「最後の博物学者・直良信夫」『学鏡』第88巻第10号, 18～21頁, 丸善, 10月
 202. 『邪馬台国時代の東日本』(編集), 総225頁, 六興出版, 11月
 203. 「最後の銅鐸」同上, 124～129頁, 11月
 204. 「絵画から記号へ—弥生時代における農耕儀礼の盛衰—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集, 3～65頁, 11月(絵画)

1992年

205. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス92』908～917頁, 集英社, 1月
206. 「青銅器の祭り」『新版「古代の日本」』4, 中国・四国, (稲田孝司・八木充編), 69～90頁, 角川書店, 1月
207. 「弥生から古墳へ」『出雲における古墳の出現を探る』10～43頁, 出雲考古学研究会, 3月
208. 「西八木遺跡」『兵庫県史』考古資料編, 86～88頁, 兵庫県, 3月
209. 「鳥・鹿・人」『弥生の神々』大阪府立弥生文化博物館図録4, 53～59頁, 大阪府立弥生文化博物館, 4月(祭り)
210. 「近世墓地を掘る」『歴博』第54号, 6～7頁, 8月
211. 『図解・日本の人類遺跡』(小野昭・小田静夫と共編著), 総242頁, 東京大学出版会, 9月
212. (縄文時代)「時代概説」同上, 50～53頁, 「住居と集落」90～93頁, 「墓」94～97頁, 「抜歯」102～103頁, (弥生時代)「時代概説」106～109頁, 「製塩」125～127頁, 「住居と集落」132～135頁, 「墓」136～139頁, 「祭祀」140～143頁, 「抜歯」148～149頁, 9月
213. 「銅鐸の製作工人」『考古学研究』第39巻第2号, 9～44頁, 9月
214. 「弥生から古墳へ—その変革過程」『日本考古学協会1992年度大会研究発表要旨』60～67頁, 日本考古学協会, 11月
215. 「弥生墓地にみる婚姻関係」『見る・読む・わかる日本の歴史』1原始・古代, 36～37頁, 朝日新聞社, 11月

1993年

216. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス93』1048～1056頁, 集英社, 1月
 217. 「特集Q&Aコーナー 銅鐸に鹿や鳥, 人を描いたのはなぜ?」『歴博』第57号, 22頁, 2月
 218. 「豚の下顎骨懸架—弥生時代における辟邪の習俗—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集, 71～140頁, 2月(祭り)
 219. 「弥生時代の再葬制」『国立歴史民俗博物館研究報告』第49集, 47～91頁, 3月(儀礼)
 220. 「土田館長と西八木の発掘」『歴博』第58号, 11頁, 4月
 221. 「時代概説45 旧石器人の登場」『マンガ日本の歴史』45, 旧石器人の登場, 194～199頁, 中央公論社, 7月
 222. 「時代概説46 縄文時代の始まり」『マンガ日本の歴史』46, 縄文時代の始まり, 194～199頁, 中央公論社, 8月
 223. 「時代概説47 縄文社会の繁栄」『マンガ日本の歴史』47, 縄文社会の繁栄, 194～199頁, 中央公論社, 9月
 224. 「〈対談〉寺野東遺跡(小山市)をめぐる」(佐原真と)『下野新聞』9月8日, 文化欄, 9月
-

-
225. 「唐古土器の「楼閣」絵画」『歴博』第61号, 2～3頁, 10月
 226. 「時代概説 48 縄文時代の終末」『マンガ日本の歴史』48, 縄文時代の終末, 194～199頁, 中央公論社, 10月
 227. 「広場をもつ村」, 「抜歯の風習」, 「埋葬と墓地」, 「豊作祈願」『日本歴史館』(佐原真ほか編), 74～75頁, 90～91頁, 98～99頁, 126～127頁, 小学館, 12月

1994年

228. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス94』1072～1081頁, 集英社, 1月
 229. 「アカシゾウとの別れ」『明石市立博物館ニュース』第5号, 3～4頁, 明石市立博物館, 1月
 230. 「序文から助言へ」『小林行雄先生追悼録』(京都大学文学部考古学研究室編), 155～157頁, 天山舎, 2月
 231. 「日本絵画史の第一頁—弥生人の絵画—」『歴博』第63号, 14頁, 2月
 232. 「銅鐸の話」『みよし風土記の丘』48, 1～6頁, みよし風土記の丘資料館, 3月
 233. 「考えに考えて, 考え抜く」『文芸春秋』第72巻第5号(4月号), グラビア頁, 4月
 234. 「新刊紹介 佐原真『遺跡が語る日本人のくらし』」『エデュカス』第5号, 80頁, 大月書店, 7月
 235. 「銅鐸の起源と年代」『論争と考古学』(明治大学考古学博物館編), 149～189頁, 名著出版, 10月
 236. 『「明石原人」とは何であったか』NHKブックス715, 総317頁, 日本放送出版協会, 11月

1995年

237. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス95』832～841頁, 集英社, 1月
 238. 「「銅鐸の美」を語る」(佐原真と対談)『毎日新聞』1月3日, 1月
 239. 「銅鈴から銅鐸へ」『日本楽器の源流』(国立歴史民俗博物館編), 25～40頁, 第一書房, 3月
 240. 「熊祭りの起源」『国立歴史民俗博物館研究報告』第60集, 57～106頁, 3月(儀礼)
 241. 『播磨古瓦の研究』今里幾次著(編集, おわりに), 総536頁, 真陽社, 4月
 242. 「葬制と親族組織」『展望考古学』84～93頁, 考古学研究会, 6月(縄文)
 243. 「鳥になった司祭者」『九州歴史大学講座』第5巻第12号, 14～17頁, 海援社, 8月(絵画)
 244. 「青陵最後の抵抗」『考古学研究』第42巻第2号, 20～32頁, 考古学研究会, 9月(考古学者)
 245. 「祭りと習俗—縄文的伝統の衰退と農耕儀礼の成立」『弥生文化の成立』(金関恕+大阪府立弥生文化博物館編), 101～115頁, 角川書店, 9月
 246. 『銅鐸の美』(佐原真と共著), 国立歴史民俗博物館企画展示図録, 総264頁, 毎日新聞社, 1995年10月
 247. 「象徴としての弥生青銅器」『歴博』第73号, 26～29頁, 10月
 248. 「銅鐸の絵・ピカソの絵「銅鐸の美」展に寄せて」『毎日新聞』11月7日, 文化欄, 11月
 249. 「新刊紹介 『播磨古瓦の研究』今里幾次著」『神戸新聞』図書欄, 11月19日, 11月
 250. 「神庭(荒神谷)青銅器と出雲勢力」『荒神谷遺跡と青銅器』(島根県古代文化センター編)191～232頁, 同朋舎, 11月
 251. 「ポリネシア出土の脊椎動物遺体(1)」直良信夫著(編集, はじめに)『動物考古学』第5号, 75～101頁, 動物考古学研究会, 11月
 252. 『学問への情熱』直良信夫著(校訂・解説), 同時代ライブラリー247, 総324頁, 岩波書店, 12月
 253. 「直良さんを想う」同上, 315～324頁

1996年

254. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス96』666～675頁, 集英社, 1月
 255. 「性象徴の考古学」『国立歴史民俗博物館研究報告』第66集, 69～160頁, 2月(儀礼)
 256. 「川島土器の絵を読む」『太子町史』第1巻月報, 9～11頁, 3月
 257. 「「文化」と「社会」—山内清男「日本遠古之文化」の一背景—」『考古学研究』第42巻第4号, 1～14頁, 3月(考古学者)
 258. 「藤江出ノ上遺跡の縄文土器」『明石市藤江別所遺跡』125～151頁, 明石市教育委員会, 3月
 259. 「抱石葬」, 「蛸ノ浦貝塚」ほか『国史大事典』吉川弘文館, 3月
-

-
260. 「弥生時代の家族・親族」『考古学による日本歴史』15, 家族と住まい, 31～40頁, 雄山閣出版, 9月
261. 「明石人」, 「古墳時代」, 「縄文時代」, 「縄文土器」, 「青銅器時代」, 「弥生時代」『新版地学事典』(地学団体研究会編), 平凡社, 10月
262. 「倭国乱—環濠集落と高地性集落」『城の語る日本史』28～52頁, 朝日新聞社, 10月
263. 『倭国乱る』(佐原真・藤尾慎一郎・仁藤敦史と共著), 総210頁, 10月
264. 「人も戦い神も戦う」『倭国乱る』(佐原真・藤尾慎一郎編), 170～173頁, 朝日新聞社, 10月
265. 「ポリネシア出土の脊椎動物遺体(2)」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第7号, 83～113頁, 11月
266. 「骨製スクレイパーから刃部磨製石斧へ—葛生町大叶出土の旧石器時代の骨器—」『旧石器考古学』第53号, 1～18頁, 12月

1997年

267. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス97』416～425頁, 集英社, 1月
268. 「考古学と記紀との相克—小林行雄の伝世鏡論—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第70集, 1～38頁, 1月(考古学者)
269. 『古代の装い』歴史発掘4, 総174頁, 講談社, 3月
270. 『銅鐸の絵を読み解く』(佐原真ほかと共著), 総239頁, 小学館, 3月
271. 「銅鐸の絵をどう読み解くか」(佐原真と対論), 同上, 131～182頁, 「銅鐸絵画集成」(佐原真と共編)183～233頁, 3月(絵画)
272. 「縄文から弥生へ—習俗からみた—」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』12, 87～99頁, 秋田県埋蔵文化財センター, 3月
273. 「獣骨製根付け」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第8号, 83～109頁, 5月
274. 「いつから神は山に隠ったのか—弥生時代の宗教—」『考古学がわかる』アエラムック, 28～29頁, 朝日新聞社, 6月
275. 「出雲岩倉銅鐸の発見」(佐原真と対談)『考古学研究』第44巻第1号, 33～44頁, 6月
276. 「銅鐸の祭り」『縄文と弥生』113～119頁, クバプロ, 9月
277. 「祭りからみた弥生時代の西と東」『歴史街道』第114号, 132～135頁, PHP研究所, 10月
278. 『出雲の銅鐸』(佐原真と共著), NHKブックス802, 総194頁, 日本放送出版協会, 10月
279. 「弥生時代の西と東—祭りからみた—」『日本人・日本文化』第2号, 9～10頁, 「日本人および日本文化の起源に関する学際的研究」事務局, 10月
280. 「佐渡の自然遺物」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第9号, 87～115頁, 10月
281. 『原始絵画』(佐原真と共著), 歴史発掘5, 総174頁, 講談社, 11月
282. 『日本および東アジアの化石鹿』直良信夫著(編集・解説), 総294頁, 直良信夫論文集刊行会, 11月
283. 「直良さんのこと」同上, 273～285頁, 11月
284. 「骨製スクレイパーを出土した葛生町大叶洞窟についての訂正」『旧石器考古学』第55号, 18頁, 12月

1998年

285. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス98』1184～1192頁, 集英社, 1月
286. 「アートの考古学: 原始の神と心」『世紀を駆け抜けるアート』「原始のアートはかく語りき」講演資料集, 15～20頁, 岐阜県宮村, 2月
287. 『縄文・魂との対話』(岡村道雄・大林太良・富樫泰時ほかとシンポジウム), 岩手県教育委員会・岩手県文化振興事業団, 2月
288. 「古代出雲の青銅器」『栄光の出雲, その実像を探る』第3回島大シンポジウム報告書, 14～31頁, 島根大学環日本海国際交流島根大学実行委員会, 3月
289. 「日本の青銅器文化の成立と展開」『古代出雲の青銅器文化』168～213頁, 環日本海松江国際交流会議, 3月
290. 「銅鐸の祭りと埋納」『加茂岩倉遺跡と古代出雲』(佐原真編)41～54頁, 雄山閣出版, 3月
291. 「加茂岩倉遺跡と古代出雲」(佐原真ほかと共著)『加茂岩倉遺跡と古代出雲』55～86頁, 雄山閣出版,
-

3月

292. 「鹿児島県の丸ノミ形石斧2例」『南九州縄文通信』第12号, 21～31頁, 南九州縄文研究会, 3月

293. 「原始のアートはかく語りき」(小川勝・吉朝則富と討論)『源流から』Vol. 2, 10～13頁, 岐阜県宮村,

4月

294. 「アンデス地域コトシユ遺跡の自然遺物」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第9号, 131～149頁,

5月

295. 『縄文時代の考古学』シンポジウム日本の考古学2(小林達雄ほか5名と共著), 総305頁, 学生社,

6月

296. 「弥生時代の祭り」『日本古代史 都市と神殿の誕生』(広瀬和雄編), 173～177頁, 新人物往来社,

7月

297. 「青森県最花貝塚の脊椎動物遺体」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第11号, 99～108頁,

11月

298. 「熊と古代人」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第11号, 109～144頁, 11月

299. 「更新世—完新世移行期の動物と人類」『シンポジウム:更新世—完新世移行期の比較考古学』19～22頁, 東京都立大学人文学部考古学研究室・国立歴史民俗博物館春成研究室, 12月

1999年

300. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス99』1076～1085頁, 集英社, 1月

301. 「親族組織の考古学」『考古資料と歴史学』(国立歴史民俗博物館編), 19～60頁, 吉川弘文館, 2月

302. 「弥生文化を見る眼」『新弥生紀行—北の森から南の海へ—』国立歴史民俗博物館ほか企画展示図録, 23～24頁, 朝日新聞社, 3月

303. 「狩猟・採集の祭り」『古代史の論点』5(金関恕・佐原真編), 神と祭り, 53～84頁, 小学館, 3月(儀礼)

304. 『戦いの進化と国家の生成』(福井勝義と共編)人類にとって戦いとは, 第1巻, 総333頁, 東洋書林, 3月

305. 「武器から祭器へ」同上, 121～160頁, 3月(祭り)

306. 「下顎骨製搔器—獣皮の加工具について—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第77集, 1～38頁, 3月

307. 「日本における土器編年と炭素14年代」『国立歴史民俗博物館研究報告』第81集, 437～449頁, 3月(検証)

308. 「埴輪の絵」『国立歴史民俗博物館研究報告』第80集, 203～233頁, 3月(祭り)

309. 「日本新石器時代貝塚産貝類の研究—カワニナ類・タニシ類・キイロカノコ—」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第12号, 87～115頁, 5月(考古学者)

310. 「新刊紹介 金関恕著『考古学は謎解きだ』」『考古学研究』第46巻第1号, 120頁, 6月

311. 「抜歯—子どもから大人へ」『歴博』第96号, 8頁, 9月

312. 「「猿人・原人・旧人・新人」の語の使い始め—渡辺直経さんからの手紙—」『考古学研究』第46巻第2号, 18～21頁, 9月

313. 「日本産アナグマ—その遺存体と生態—」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第13号, 79～130頁, 11月

314. 「炭素14年代の新段階」(今村峯雄・辻誠一郎と鼎談)『考古学研究』第46巻第3号, 90～100頁, 12月

2000年

315. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス2000』1124～1133頁, 集英社, 1月

316. 「正月と粥杖」『歴博』第98号, 6～10頁, 国立歴史民俗博物館, 1月(儀礼)

317. 「日本の青銅器文化と東アジア」『第3回歴博国際シンポジウム 東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道』26～36頁, 国立歴史民俗博物館, 1月

318. 「哀悼抜歯—アジア・アメリカ・ポリネシアをつなぐ習俗—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第83集, 1～59頁, 3月(祭り)

-
319. 「明石原人, 腕飾り・腕輪, 海進・海退, 首飾り, 住居跡, 製鉄, 銅鐸, ナウマン, ナウマンゾウ, 直良信夫」『日本歴史大事典』小学館, 3月
320. 『荒海貝塚(設楽博己と共著)『千葉県歴史』資料編, 考古1(旧石器・縄文時代), 950~959頁, 千葉県, 3月
321. 「伊州の銅鐸」『考古学研究』第46巻第4号, 145~146頁, 3月
322. 『直良さんの明石時代』(編著), 総426頁, 六一書房, 10月
323. 「変幻する龍一弥生土器・銅鏡・古墳の絵一」『ものがたり 日本列島に生きた人たち』5, 絵画(黒田日出男編), 15~63頁, 岩波書店, 11月(祭り)
324. 「龍野市北山出土の弥生時代青銅塊」(志水豊章・岸本道昭・平尾良光ほかと共著)『考古学雑誌』第86巻第1号, 63~81頁, 12月
325. 「辟邪の豚」『倭人をとりまく世界』(国立歴史民俗博物館編)126~130頁, 山川出版社, 4月
326. 「日本産カワウソその遺存体と生態」直良信夫著(編集, 付記)『動物考古学』第15号, 115~143頁, 11月
327. 「「猿人」「原人」と井尻正二さん」『考古学研究』第47巻第3号, 127~128頁, 12月
- 2001年**
328. 「考古学」(佐原真と共著)『イミダス01』1103~1111頁, 集英社, 1月
329. 『シンポジウム:前期旧石器問題を考える 発表要旨』(編著), 総79頁, 国立歴史民俗博物館春成研究室, 1月
330. 「「前期旧石器」の検証」同上, 28~44頁, 1月
331. 『先史時代の生活と文化』(編著), 「日本人および日本文化の起源に関する学際的研究」論文集, 総472頁, 国立歴史民俗博物館春成研究室, 2月
332. 「下顎骨製搔器一獣皮の加工具について一」同上, 105~142頁, 2月(306を採録)
333. 「弥生時代の西と東一祭りからみた一」同上, 457頁, 2月
334. 「日本の龍」同上, 460頁, 2月
335. 『縄文社会の考古学』林謙作著(編集・編集後記), 総586頁, 同成社, 3月
336. 「更新世末の大形獣の絶滅と人類」『国立歴史民俗博物館研究報告』第90集, 1~52頁, 3月
337. 『大分県聖嶽洞窟の調査』(編著), 考古学資料集14, 総113頁, 国立歴史民俗博物館春成研究室, 3月
338. 「はじめに」i~ii頁, 「第1次調査の概要」同上, 2~16頁, 「第2次調査の企画」(小田静夫と共著)17~18頁, 「炭化物の年代」(今村峯雄と共著)79~82頁, 「遺跡・遺物の再検討」95~102頁, 「結論」103~105頁, 3月
339. 『沖縄県大泊浜貝塚』(安里進と共編), 考古学資料集27, 総131頁, 国立歴史民俗博物館春成研究室, 3月
340. 「はじめに」同上, 1~2頁, 3月
341. 「南して邪馬台国, 女王の都する所一邪馬台国の位置」『三国志がみた倭人たち』(設楽博己編), 225~253頁, 山川出版社, 4月
342. 『検証 日本の前期旧石器』(編著), 総110+91頁, 学生社, 5月
343. 「「前期旧石器」の検証」同上, 19~27頁, 29~44頁, 5月(検証)
344. 「前期旧石器遺跡「捏造」問題を考える」(木村英明・河合信和と鼎談)『歴博』第106号, 20~25頁, 5月
345. 「大林太良さんと考古学と」『考古学研究』第48巻第1号, 136~137頁, 6月
346. 「縄文人の心」「弥生人の文化」「前期旧石器遺跡の捏造」『日本人はるかな旅展』70~71頁, 87~94頁, 100~101頁, 国立科学博物館, 9月
347. 「「前・中期旧石器」問題の近況」『考古学研究』第48巻第2号, 11~17頁, 9月
348. 「新刊紹介 甲元真之著『中国新石器時代の生業と文化』」『考古学研究』第48巻第1号, 125~126頁, 6月
349. 「新刊紹介 小畑弘己著『シベリア先史考古学』」『考古学研究』第48巻第2号, 114~115頁, 9月
-

350. 「聖嶽洞窟問題」『旧石器考古学』第62号, 77～89頁, 11月(検証)
 351. 「旧石器時代から縄文時代へ」『第四紀研究』第40巻第6号, 517～526頁, 12月
 352. 「前・中期旧石器」問題の近況(2)『考古学研究』第48巻第号, 12～19頁, 12月

2002年

353. 「考古学」『イミダス02』(佐原真と共著) 1102～1111頁, 集英社, 1月
 354. 「銅鐸と社会」『古代を考える 稲・金属・戦争—弥生—』(佐原真編) 209～246頁, 吉川弘文館, 1月(祭り)
 355. 「「秩父原人」問題寸感」『埼玉県前期旧石器問題検討報告書』107～108頁, 埼玉県教育委員会, 3月
 356. 「森本から小林への遺産—小林行雄『日本考古学概説』の誕生—」『考古学研究』第48巻第4号, 86～106頁, 3月(検証)
 357. 『銅鐸の考古学』佐原真著(編集・後記), 総419頁, 東京大学出版会, 3月
 358. 『香川県詫間町紫雲山遺跡』(佐原真と共著), 総8頁, 詫間町教育委員会, 3月
 359. 『稲作の考古学』岡崎敬著(編集・後記), 総333頁, 第一書房, 4月
 360. 「日本の先史仮面」『仮面—そのパワーとメッセージ』59～90頁, 里文出版, 4月(儀礼)
 361. 「明石原人論争, 朝顔形埴輪, 威信財, 円筒埴輪, 研歯, 弧帯文, 縄文時代年代論争, 石器時代人論争, 装身具, 特殊器台・特殊壺, 抜歯, 弥生時代・弥生文化」『日本考古学事典』(田中琢・佐原真編) 三省堂, 5月
 362. 「神武陵の起源」『考古学研究』第49巻第1号, 17～23頁, 6月(検証)
 363. 「考古学に大輪の花 佐原真さんを悼む」『朝日新聞』大阪版, 7月12日夕刊, 文化欄, 7月
 364. 「「華」と心のある考古学者 佐原真さんを悼む」『毎日新聞』東京版, 7月16日夕刊, 7月
 365. 「第一展示室「日本文化のあけぼの」の一部変更について」(西本豊弘と共著)『歴博』第113号, 22～25頁, 7月
 366. 「装身具の源流」『男も女も装身具』国立歴史民俗博物館企画展示図録, 84～85頁, 7月
 367. 「明石と直良さんの思い出」『「明石原人」の発見者直良信夫生誕100年展』76～81頁, 明石市立文化博物館, 7月
 368. 『シルクロードと朝鮮半島の考古学』岡崎敬著(編集・後記), 総346頁, 第一書房, 7月
 369. 「平和を願って—佐原真さんの戦争研究—」『考古学ジャーナル』第492号, 35頁, 9月
 370. 「西嶋さんの古墳論と日本考古学」『西嶋定生 東アジア史論集』月報4, 1～3頁, 岩波書店, 9月
 371. 「佐原さんの最期」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』No. 103 特集号, 1～2頁, 9月
 372. 「後藤守一の「日本精神」論」『人類にとって戦争とは』5, 2～34頁, 東洋書林, 10月(考古学者)
 373. 『古代中国の考古学』岡崎敬著(編集・後記), 総348頁, 第一書房, 11月
 374. 『縄文社会論究』総579頁, 塙書房, 10月
 375. 『魏志倭人伝の考古学—九州編—』岡崎敬著(編集・後記), 総380頁, 第一書房, 11月

2003年

376. 「考古学」『イミダス03』964～972頁, 集英社, 1月
 377. 「青銅器と鉄器の登場」『稲と金属器』日本の歴史7, 週刊朝日百科37, 朝日新聞社, 204～210頁, 2月
 378. 「井向1・2号銅鐸の絵画」『辰馬考古資料館考古学研究紀要』第5号, 55～84頁, 辰馬考古資料館, 3月(絵画)
 379. 『沖縄県茅打パンタ遺跡』(新田重清と共編), 総140頁, 考古学資料集30, 国立歴史民俗博物館春成研究室, 3月
 380. 「まとめ」同上, 76～77頁, 3月
 381. 『魏志倭人伝の考古学—対馬・壱岐編—』岡崎敬著(編集・後記), 総372頁, 第一書房, 5月
 382. 『前・中期旧石器問題の検証』(編集), 総625頁, 日本考古学協会, 5月
 383. 「前・中期旧石器問題の経緯」同上, 3～6頁, 「前・中期旧石器問題の解析」593～600頁
 384. 「弥生時代の開始年代—¹⁴C年代の測定結果について—」(藤尾慎一郎・今村峯雄・坂本稔と共著)『日

本考古学協会第69回総会研究発表要旨』65～68頁，5月

385. 「日本人の起源」(佐原真名義)『要説日本歴史』(朝尾直弘ほか編)，4～12頁，東京創元社，6月
386. 『魏志倭人伝の考古学』佐原真著(編集・後記)，岩波現代文庫106，総400頁，7月
387. 「弥生時代の開始年代」『歴博』第120号，6～10頁，9月
388. 「考古資料の偽造と誤断」『国立歴史民俗博物館研究報告』第108集，219～242頁，10月(検証)
389. 「佐原さん あの日 あの時」『文化遺産の世界』第11号，4～8頁，国際航業株式会社アドバンス事業本部文化財事業部，11月
390. 『考古学者はどう生きたか—考古学と社会—』総383頁，学生社，11月
391. 「銅鐸の世界」『歴博』第121号，2～5頁，11月
392. 「弥生早・前期の鉄器問題」『考古学研究』第50巻第3号，11～17頁，12月(検証)

2004年

393. 「考古学」『イミダス04』1306～1314頁，集英社，1月
394. 「日本旧石器文化の起源」『歴史研究の最前線』第1号，8～33頁，総研大日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館，1月
395. 「座談会〈弥生時代の開始年代〉」(今村峯雄・設楽博己と)『歴史研究の最前線』第1号，63～129頁，総研大日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館，1月
396. 「縄文時代の婚姻形態」『展望日本歴史3 原始社会』(石川日出志・小杉康編)，152～167頁，東京堂出版，2月(88を採録)
397. 「旧石器時代の精神生活」『千葉県の歴史』資料編，考古4(遺跡・遺構・遺物)，(千葉県史料研究財団編)174～177頁，千葉県，3月
398. 「抜歯」同上，488～505頁，3月
399. 「石製品」『佐倉城跡発掘調査報告』第1分冊，172～178頁，第2分冊，304～338頁，国立歴史民俗博物館，3月
400. 『東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道』(編著)，『国立歴史民俗博物館研究報告』第119集，総447頁，3月
401. 「日本の青銅器文化と東アジア」『国立歴史民俗博物館研究報告』第119集，31～49頁，3月
402. 「岡山市南方(済生会)遺跡出土土器付着物の¹⁴C年代測定」(小林謙一・坂本稔・今村峯雄・松崎浩之・扇崎由と共著)『岡山市埋蔵文化財センター年報3』2002年度，岡山市教育委員会，54～65頁，3月
403. 『縄文時代史Ⅰ』林謙著作(編集・あとがき)，総302頁，雄山閣，5月
404. 「弥生時代の実年代—¹⁴C年代の測定結果について—」(今村峯雄・藤尾慎一郎ほかと共著)『日本考古学協会第70回総会研究発表要旨』73～76頁，日本考古学協会，5月
405. 『弥生時代の実年代』(今村峯雄と共編)，総253頁，学生社，6月
406. 「近畿・中国の実年代」同上，20～31頁，「炭素14年代と日本考古学」103～113頁(検証)，「炭素14年代と鉄器」148～160頁(検証)，「弥生時代の実年代—過去・現在・将来」234～249頁，6月(検証)
407. 「弥生時代の新年代」『埋文とやま』第87号，4～5頁，富山県埋蔵文化財センター，7月
408. 「弥生時代の年代推定」『季刊考古学』第88号，17～22頁，8月
409. 『縄文時代史Ⅱ』林謙著作(編集・あとがき)，総298頁，雄山閣，2004年12月
410. 『前方後円墳の研究』甘粕健著(編集)，総564頁，同成社，12月
411. 「編集後記」同上，563～564頁，12月
- #### 2005年
412. 「考古学」『イミダス05』1162～1169頁，集英社，1月
413. 『戦争の考古学』佐原真著(編集・編集付記)，佐原真の仕事4，総319頁，岩波書店，1月
414. 『美術の考古学』佐原真著(編集・編集付記)，佐原真の仕事3，総337頁，岩波書店，2月
415. 「解説」同上，328～334頁，2月
416. 「弥生時代の始まり」『日本の文化・岡山の文化』(山陽学園大学・山陽学園短期大学社会サービスセ

- ンター編), 85～110頁, 吉備人出版, 2月
417. 『考古学への案内』佐原真著(編集・編集付記), 佐原真の仕事1, 総314頁, 岩波書店, 3月
418. 「『石の骨』の虚実」『松本清張研究』第6号, 92～120頁, 北九州市立松本清張記念館, 3月(検証)
419. 「大和市上野遺跡出土縄紋草創期土器付着物の¹⁴C年代」(小林謙一・今村峯雄と共著)『大和市史研究』第31号, 1～11頁, 大和市役所, 3月
420. 「東広島市黄幡1号遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素14年代測定」(藤尾慎一郎・坂本稔・小林謙一・尾寄大真・新免歳靖・今村峯雄と共著)『黄幡1号遺跡発掘調査報告書』文化財センター調査報告書, 第47冊, 97～105頁, 東広島市教育文化振興事業団, 3月
421. 『道具の考古学』佐原真著(編集・編集付記)『佐原真の仕事2, 総492頁, 岩波書店, 5月
422. 「弥生時代中期の実年代—¹⁴C年代の測定結果について—」(今村峯雄・藤尾慎一郎・小林謙一・坂本稔・西本豊弘と共著)『日本考古学協会第71回総会研究発表要旨』130～133頁, 日本考古学協会, 5月
423. 「直良信夫の日記と戦争」『歴博』第131号, 15～18頁, 7月(検証)
424. 『衣食住の考古学』佐原真著(編集・編集付記), 佐原真の仕事5, 総365頁, 岩波書店, 7月
425. 『考古学と現代』佐原真著(編集・編集付記), 佐原真の仕事6, 総385頁, 岩波書店, 9月
426. 『日本の考古学』上, 下(佐原真・ウェルナー・シュタインハウス監修, 稲田孝司ほか3名と共編), 総753頁, 学生社, 12月
427. 「弥生時代概説」同上, 上268～272頁, 12月
428. 「農耕の祭りの始まり」同上, 上358～363頁, 12月
429. 「北京原人骨の行方」『*Anthropological Science* (Japanese Series)』Vol. 113, No. 2, pp. 161～179, 12月(検証)
- 2006年**
430. 「青銅器を埋めた場所」『日本の神々と祭り—神社とは何か?—』国立歴史民俗博物館企画展示図録, 20～21頁, 国立歴史民俗博物館, 3月
431. From Jomon to Yayoi: An analysis Based on the Early Yayoi Custom of Tooth Extraction and on Burial Grounds. *jdzb documentation*, Vol. 8, Symposium: Archaeology in Japan-Upheavals and Continuities, pp. 108～125, Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin, 3月
432. 「縄文から弥生へ—弥生前期の抜歯と墓地の分析—」(『シンポジウム日本考古学—日本原始古代の変革と連続』*jdzb documentation*, 第9巻, 113～124頁, ベルリン日独センター, 3月
433. 「唐古・鍵遺跡, 清水風遺跡出土試料の¹⁴C年代測定」(小林謙一・今村峯雄・坂本稔・尾寄大真・新免歳靖・松崎浩之・中村俊夫・藤田三郎と共著)『田原本町文化財調査年報』14, 田原本町教育委員会, 123～138頁, 3月
434. 「奈良県唐古・鍵遺跡出土大型建物柱根の炭素14年代測定」(坂本稔・小林謙一・新免歳靖・中村俊夫・豆谷和之と共著)同上, 139～146頁, 3月
435. 「近畿地方における年代測定の結果」(小林謙一と共著)『弥生時代の新年代』新弥生時代のはじまり, 第1巻(西本豊弘編), 96～97頁, 雄山閣, 5月
436. 「弥生時代の年代問題」同上, 65～89頁, 5月
437. 「弥生早期の年代問題」『日本考古学協会第72回総会研究発表要旨』322～325頁, 日本考古学協会, 5月
438. 「縄文時代草創期の炭素14年代測定」(小林謙一・今村峯雄・西本豊弘と共著)同上, 69～72頁, 5月
439. 「九州の弥生早・前期の実年代」(藤尾慎一郎・小林謙一・今村峯雄・坂本稔・尾寄大真と共著), 同上, 77～80頁, 5月
440. 「遺跡の復元」『新版 遺跡保存の事典』(文化財保存全国協議会編)107～108頁, 平凡社, 5月
441. 「通説・定説の再検討を」『毎日新聞』6月10日, 主張・提言・討論の広場, 6月
442. 「最古銅鐸の年代」『弥生農耕の起源と東アジア ニュースレター』No. 5, 3頁, 西本豊弘, 7月
443. 『考古学はどう検証したか—人類学・考古学と社会—』, 総515頁, 学生社, 9月

-
444. 「鋳物師谷一号墓調査の思い出」『葛原さんを偲ぶ』46～47頁, 葛原克人氏追悼集刊行会, 11月
445. 「女だけをあらわしたか—上黒岩の石偶—」『歴博』第139号, 2～3頁, 11月
446. 「共同研究「愛媛県上黒岩遺跡の研究」」『歴博』第139号, 24～25頁, 11月
447. 「銅鐸と農耕儀礼」『古代アジアの青銅器文化と社会』歴博国際シンポジウム2006発表要旨集, 147～152頁, 国立歴史民俗博物館, 12月
448. 「大阪府瓜生堂遺跡出土弥生中期木棺の年代」(坂本稔・小林謙一と共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』第133集, 71～83頁, 12月
449. 「弥生時代と鉄器」『国立歴史民俗博物館研究報告』第133集, 173～198頁, 12月(一部, 検証)
450. 「遼西式銅戈と関連資料の調査研究」(小林青樹・宮本一夫・石川岳彦と共著)『日本中国考古学会2006年大会(第17回大会・総会)発表資料集』49～54頁, 日本中国考古学会, 12月
451. 「弥生時代的年代問題」(姚義田訳)『遼寧省博物館館刊』第1輯, 37～61頁, 遼寧省博物館, 12月
- 2007年**
452. 「上黒岩ヴィーナスと世界のヴィーナス」『縄文時代のはじまり』第58回歴博フォーラム発表要旨, 12～15頁, 国立歴史民俗博物館, 1月
453. 『儀礼と習俗の考古学』総458頁, 塙書房, 1月
454. 「節分, 方相氏, 熊送り」『歴史書通信』第170号, 2～4頁, 歴史書懇話会, 3月
455. 「弥生青銅器の成立年代」『国立歴史民俗博物館研究報告』第137集, 135～156頁, 3月
456. 「大陸文化と弥生時代の年代」『弥生時代はどう変わるか』(広瀬和雄編)20～50頁, 学生社, 3月
457. 「横山さんの思い出」『横山浩一先生追悼文集』24～27頁, 横山浩一先生追悼文集刊行会, 4月
458. 「近畿地方における弥生時代の開始年代」『縄文時代から弥生時代へ』新弥生時代のはじまり, 第2巻(西本豊弘編), 20～34頁, 雄山閣, 5月
459. 「防牌形銅飾りの系譜と年代」『縄文時代から弥生時代へ』同上, 128～146頁, 5月
460. 「弥生時代前・中期の実年代」(今村峯雄・西本豊弘・藤尾慎一郎・坂本稔・小林謙一と共著)『日本考古学協会第73回総会研究発表要旨』32～33頁, 5月
461. 「化石から埴輪, 銅板へ」『歴博』第142号, 26～27頁, 5月
462. 「史点 北アメリカ先住民と銅板」『読売新聞』西部版, 7月1日, 文化欄, 7月
463. 「弥生時代とは」「近畿地方」「金属器のはじまり」「弥生の年代観はどう変わったか」『弥生はいつから—年代研究の最前線—』国立歴史民俗博物館企画展示図録, 33, 53, 55, 73～75, 83頁, 国立歴史民俗博物館, 7月
464. 「鉄器の始まりは中期から—弥生はいつから」『千葉日報』8月16日, 16面, 8月
465. 「余人の追隨許さぬ域に達す(難波洋三さんの銅鐸研究)」『京都民報』9月9日, 文化欄, 京都民報社, 9月
466. 「明石海岸の哺乳類化石の産状」『徳永重元博士献呈論集』175～225頁, パリノ・サーヴェイ株式会社出版刊行会, 10月
467. 「遼西式銅戈と朝鮮式銅戈の起源」(小林青樹・石川岳彦・宮本一夫と共著)『中国考古学』第7号, 57～76頁, 日本中国考古学会, 12月
468. 「遼寧式銅剣の起源と年代」(宮本一夫・小林青樹・石川岳彦と共著)『日本中国考古学会2007年大会発表資料集』93～99頁, 日本中国考古学会, 12月
- 2008年**
469. 「見直しがすすむ弥生時代—「稲と鉄」の600年間ではなかった—」『科学』第78巻第1号, 48～51頁, 岩波書店, 1月
470. 「西川さんの思い出」『追悼 西川宏先生』73～75頁, 故西川宏先生追悼文編集委員, 1月
471. 『縄紋土器と弥生土器』佐原真著(編集), 総377頁, 学生社, 2月
472. 「解説」同上, 368～375頁, 2月
473. 「児嶋の白猪屯倉」『支配の古代史』(広瀬和雄・仁藤敦史編), 65～76頁, 学生社, 3月
474. 「上黒岩ヴィーナスと世界のヴィーナス」『縄文時代のはじまりを探る』(小林謙一編), 40～72頁,
-

六一書房, 3月

475. 「河内地域における弥生前期の炭素 14 年代測定研究」(小林謙一・坂本稔・秋山浩三と共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』第 139 集, 17～51 頁, 3月
476. 『直良信夫コレクション目録』(編) 国立歴史民俗博物館資料目録 7, 総 246 頁, 3月
477. 『祭りと呪術の考古学』総 450 頁, 塙書房, 6月(予定)

() は再録した論文集の書名を示す。

縄文:『縄文社会論究』2002 年, 考古学者:『考古学者はどう生きたか』2003 年, 検証:『考古学はどう検証したか』2006 年, 儀礼:『儀礼と習俗の考古学』2007 年, 祭り:『祭りと呪術の考古学』2008 年, 絵画:『弥生絵画の考古学』(2009 年刊行予定)。

II 学会発表

1. 「日本旧石器時代研究史から学ぶもの」考古学研究会 1970 年度総会, 1970 年 4 月 19 日, 岡山大学
2. 「岡山県造山・作山古墳の築造年代について」岡山史学会 1972 年度大会, 1972 年 12 月 3 日, 岡山大学
3. 「弥生時代はいかにして始まったか」考古学研究会 1973 年度総会, 1973 年 4 月 22 日, 岡山大学
4. 「抜歯の話」古代学研究会例会, 1975 年 2 月 22 日, 大阪
5. 「山口県土井ヶ浜遺跡の墓域構成」日本考古学協会第 46 回総会, 1980 年 5 月 4 日, 東洋大学
6. Marriage systems in the Jomon period, 第 11 回国際人類学民族学連合会議, 1983 年 8 月 25 日, Vancouver, Canada
7. 「採取社会から農耕社会へー日本ー」国立民族学博物館特別研究 日本民族文化の源流の比較研究シンポジウム V 『社会組織—イエ・ムラ・ウジ—』1984 年 1 月 28 日, 国立民族学博物館
8. 「愛知県伊川津遺跡の調査—縄文晩期埋葬を中心として—」1984 年 12 月 15 日, 日本考古学会第 27 回例会, 東京国立博物館
9. 「明石市西八木海岸の発掘調査」日本文化財科学会第 3 回大会, 1985 年 4 月 28 日, 学習院大学
10. 「明石市西八木海岸発見の人工遺物」第 40 回日本人類学会・日本民族学会連合大会, 1986 年 11 月 2 日, 九州大学
11. 「日本の銅鐸」東南アジア考古学会日越考古学セミナー, 1987 年 7 月 6 日, 國學院大学
12. 「抜歯から古代社会を推理する」歯科基礎医学会第 32 回総会, 1990 年 10 月 21 日, 東京歯科大学
13. 「銅鐸の製作工人」考古学研究会第 38 回総会, 1992 年 4 月 25 日, 岡山大学
14. 「弥生から古墳へーその変革過程」日本考古学協会 1992 年度大会, 1992 年 11 月, 奈良大学
15. 「古代出雲の青銅器」第 3 回島大シンポジウム「栄光の出雲, その実像を探る」1997 年 10 月 30 日, 島根大学
16. 「日本における土器編年と炭素 14 年代」国立歴史民俗博物館第 1 回国際シンポジウム, 1998 年 11 月 28 日, 国立歴史民俗博物館
17. 「更新世 - 完新世移行期の動物と人類」日本人および日本文化の起源に関する学際的研究「更新世—完新世移行期の比較考古学」シンポジウム, 1998 年 12 月 5 日, 東京都立大学
18. 「銅鐸の来た道」考古学研究会岡山例会, 1998 年 12 月 6 日, 岡山大学
19. 「日本先史の仮面」[日本人・日本文化]国際シンポジウム, 1999 年 11 月 8 日, 国際日本文化研究センター
20. 「東アジアからみた弥生時代の青銅器文化」国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道」, 2000 年 1 月 31 日, 国立歴史民俗博物館
21. 「日本の龍」[日本人・日本文化]学際シンポジウム, 2000 年 8 月 1 日, 国際日本文化研究センター
22. 「旧石器時代から縄文時代へ—問題と展望—」2000 年日本第四紀学会大会シンポジウム「21 世紀の年代観—炭素年から暦年へ」2000 年 8 月 26 日, 国立歴史民俗博物館
23. 「旧石器時代から縄文時代へ」日本文化財科学会第 17 回大会, 2000 年 8 月 29 日, 佐倉市音楽ホール
24. 「弥生時代の開始年代」(藤尾慎一郎・今村峯雄・坂本稔と共同発表) 日本考古学協会第 69 回総会,

2003年5月25日, 日本大学

25. 「炭素14年代と日本考古学」第5回考古科学シンポジウム, 2003年11月22日, 名古屋大学
26. 「弥生時代の実年代」(今村峯雄・藤尾慎一郎・坂本稔・小林謙一と共同発表) 日本考古学協会第70回総会, 2004年5月23日, 千葉大学
27. 「縄文から弥生へ」シンポジウム日本考古学—日本原始古代の変革と連続, 2004年11月24日, ベルリン日独センター
28. 「弥生時代中期の実年代」(今村峯雄・藤尾慎一郎・小林謙一・坂本稔・西本豊弘と共同発表) 日本考古学協会第71回総会, 2005年5月22日, 国士館大学
29. 「弥生早期の年代問題」日本考古学協会第72回総会, 2006年5月28日, 東京学芸大学
30. 「銅鐸と農耕儀礼」国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「アジアの青銅器文化」2006年12月3日, 国立歴史民俗博物館

Ⅲ 展示

1. 国立歴史民俗博物館常設展示「日本文化のあけぼの」1983年3月
2. 国立歴史民俗博物館常設展示「稲と倭人」(展示代表者) 1983年3月
3. 国立歴史民俗博物館常設展示「古墳がつくられた時代」1983年3月
4. 国立歴史民俗博物館常設展示「稲のまつり」(展示代表者) 1985年3月
5. 国立歴史民俗博物館特別展示「弾・吹・打—日本の楽器とその系譜—」1992年10月
6. 国立歴史民俗博物館開館10周年記念展示「装飾古墳の世界」1993年10月
7. 国立歴史民俗博物館特別展示「銅鐸の美」(展示代表者) 1995年10月
8. 国立歴史民俗博物館常設展示「稲と倭人」リニューアル(展示代表者) 1996年3月
9. 国立歴史民俗博物館特別展示「倭国乱」1996年10月
10. 国立歴史民俗博物館特別展示「新弥生紀行」1999年3月
11. 国立科学博物館特別展示「日本人はるかな旅」2001年9月
12. 国立歴史民俗博物館常設展示「日本文化のあけぼの」リニューアル 2002年6月
13. 国立歴史民俗博物館特別展示「男も女も装身具」2002年7月
14. 国立歴史民俗博物館新収蔵品展示「流水文銅鐸」2003年1月
15. 国立歴史民俗博物館新収蔵品展示「世界の旧石器コレクション」2004年1月
16. 国立歴史民俗博物館新収蔵品展示「袈裟襷文銅鐸の歴史」2006年1月
17. 国立歴史民俗博物館特別展示「日本の神々と祭り—神社とは何か—」2006年3月
18. 国立歴史民俗博物館特別展示「弥生はいつから」2007年7月

Ⅳ 共同研究

1. 「東アジアにおける農耕文化の成立と拡散」(研究代表者) 1998～2001年
2. 「愛媛県上黒岩遺跡の研究」(研究代表者) 2004～2007年

Ⅴ シンポジウム

1. 国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道」(代表者) 2000年1月31日～2月4日, 国立歴史民俗博物館
2. 「日本人および日本文化の起源に関する学際的研究」シンポジウム「前期旧石器問題を考える」(代表者) 2001年1月21日, 日本教育会館
3. 国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「アジアの青銅器文化と社会」(代表者) 2006年12月1日～3日, 国立歴史民俗博物館

Ⅵ 情報集成

1. 『農耕開始期の石器組成』1～4(代表), 国立歴史民俗博物館資料調査報告書7, 1996年・1997年

Ⅶ 資料目録

1. 『直良信夫コレクション目録』 国立歴史民俗博物館資料目録 7, 2008 年
2. 『弥生青銅器コレクション図録』 国立歴史民俗博物館資料図録 6, 2008 年 (予定)